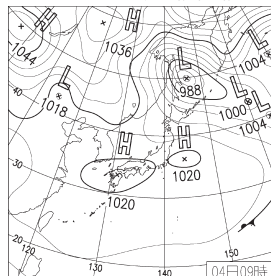


# 日々の天気図

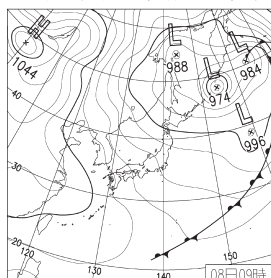
— No. 182

## 2017年3月

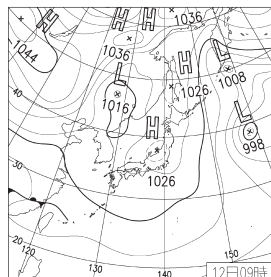
- 10～11日、八重山地方で大雨、日降水量が3月1位の所も。
- 11日、北海道羅臼漁港沖で漁船8隻が流氷で一時的航行不能に。
- 20日、日最小湿度広島9%、熊谷7%はそれぞれ3月として1位。
- 27日、栃木県那須町の山で高校生らがなだれに巻き込まれ死傷。  
(気象庁予報部予報課)



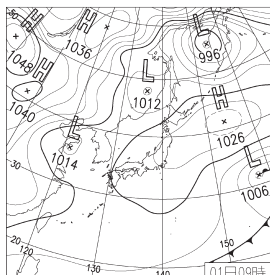
**4日(土)北海道は各地で真冬日**  
発達した低気圧はサハリン付近へ、北日本は風強く寒気や気圧の谷の影響で雪や雨、西～東日本は高気圧に覆われ晴れ。最高気温は北日本で平年より低く北海道日本海側で真冬並。



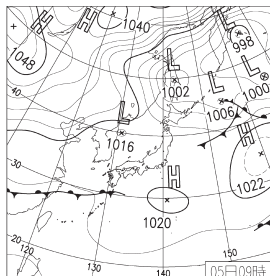
**8日(水)真冬並の寒さ**  
冬型の気圧配置が続き、山陰～北陸～北日本は雪、強い寒気の南下で太平洋側でも所々雪。日降雪量は北陸～東北で50cm前後。最低気温は水点下の所が多く、東京も0℃に冷え込む。



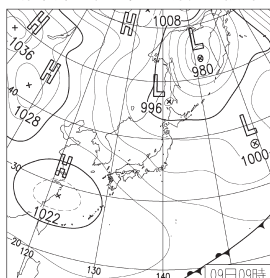
**12日(日)西日本は気温上昇**  
高気圧に覆われて晴れたため、最低気温は放射冷却により真冬並の地点多数。全国の約7割、622地点で冬日。西日本中心に最高気温が3月下旬～4月上旬並に上昇。福島県で震度4。



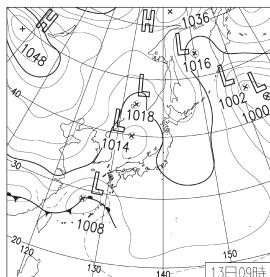
**1日(水)天気下り坂**  
前線の影響で沖縄～西日本太平洋側は雨、東海・関東も晴れから次第に雨。北日本は高気圧に覆われ概ね晴れたが北海道日本海側は雨や雪。熊本市でウグイス、富山市でヒバリ初鳴。



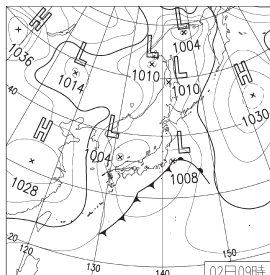
**5日(日)天気は西から下り坂**  
日本の南の高気圧は東に移動、前線が華南～東シナ海にのび出し夜には低気圧発生。沖縄～西日本太平洋側は次第に雨。北日本日本海側は所々雪。関東～北日本太平洋側は晴れ。



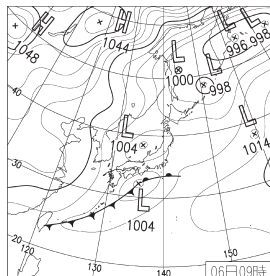
**9日(木)全国的に冬型**  
冬型の気圧配置が続き、山陰～北陸～北日本で雪や雨、西～東日本太平洋側の一部でも雨や雪。関東は晴れ。沖縄は湿った気流の影響で曇り。青森で最深積雪56cm。



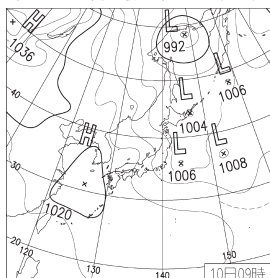
**13日(月)天気は下り坂**  
南西諸島と日本海を低気圧東進。北陸～東北日本海側は晴れ後曇りや雨。北海道は晴れ、その他は曇りや雨。鹿児島県諏訪の瀬島で29.5mm/1h。山陰～北陸では最高気温15℃超。



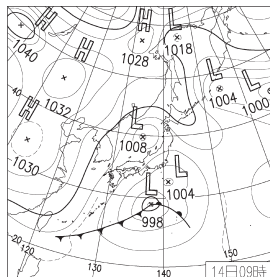
**2日(木)大気の状態不安定**  
強い寒気を伴った低気圧の影響で西～東日本は雨や雷。福岡と下関ではひょうを観測。沖縄は寒冷前線通過時に旧東で3月1位の32.5mm/1hの激しい雨。熊本・宮崎・大分県で震度4。



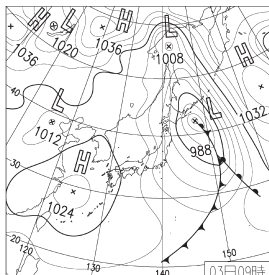
**6日(月)二つ玉低気圧**  
日本付近は深い気圧の谷、南岸と日本海～北日本を低気圧が東進。沖縄～西～東日本太平洋側で雨、山陰～北陸・北日本も次第に雪や雨。東日本中心に気温高く朝の冷え込み緩む。



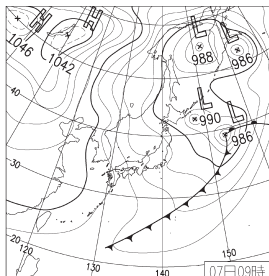
**10日(金)冬型は次第に緩む**  
華南～沖縄に前線がのび沖縄で大雨。北盛山で49mm/1h、日降水量202.5mm。気圧の谷通過で山陰以北の日本海側も雨や雪で雷も。福岡・仙台市などウグイス初鳴。佐賀・大分市ツバメ初見。



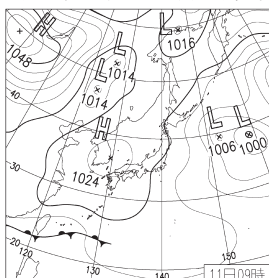
**14日(火)深い気圧の谷**  
日本海の寒気を伴った低気圧と日本の南の低気圧により沖縄・奄美や西～東日本の南岸で雨、山陰～北陸や東北は雪や雨。高気圧に覆われ北海道は晴れ。静岡市でウグイス初鳴。



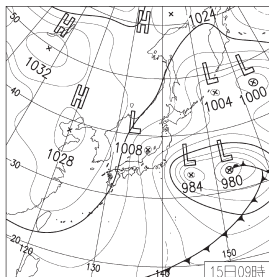
**3日(金)北日本中心の冬型**  
低気圧が発達して三陸沖から千島近海へ進み、北日本中心に冬型の気圧配置。日本海側で雨や雪、太平洋側は概ね晴れ。北日本中心に風強まり北海道羅臼で最大瞬間風速34.5m/s。



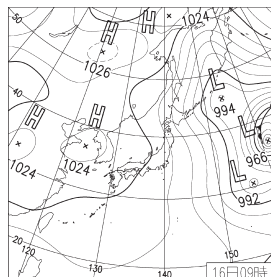
**7日(火)冬型の気圧配置**  
日本海側は雪や雨。強い寒気により大気の状態が不安定となり東日本で雪やあられ、雷も。東京都神津島で最大瞬間風速26.2m/s。全国的に最高気温平年より低く14地点で真冬日。



**11日(土)東日本大震災から6年**  
前線の影響で南西諸島は曇りや雨。北日本日本海側は曇りや雪。その他は高気圧に覆われ概ね晴れ。未明に沖縄県西表島で61.5mm/1h、所野で3月1位となる最大風速17.4m/s。

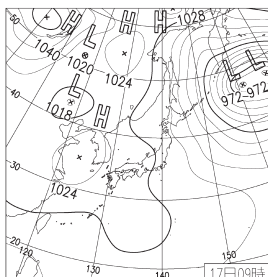


**15日(水)寒冷低気圧本州を南下**  
上空約5500mで-33℃以下の寒気が西～東日本に流入。次第に冬型気圧配置に。山陰～北陸を中心に雨や雪。中国山地でも日降雪量10cm超。関東～東北南部でも雨や雪残る。



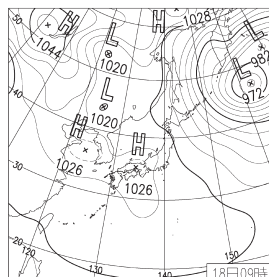
### 16日(木)西日本から冬型緩む

南西諸島～九州南部は気圧の谷の影響で曇り。東～北日本の日本海側や北海道オホーツク海側は冬型気圧配置の影響で雪や雨。水戸市でウグイス、宇都宮市でヒバリ初鳴。



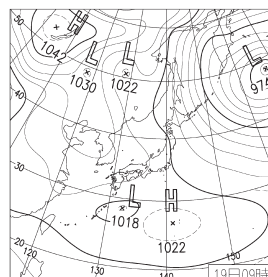
### 17日(金)北日本で冬型残る

沖縄は雨や曇り。西～東日本は高気圧に覆われ晴れ。冬型気圧配置が残った北日本は曇りや雨または雪。関東以西は晴れて放射冷却で冷え込み西日本では最低気温が真冬並の所も。



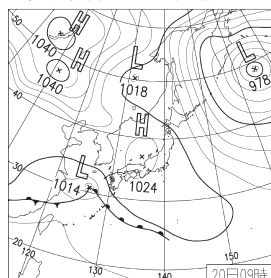
### 18日(土)高気圧に覆われる

南西諸島では曇りや雨。東北は午後、気圧の谷の影響で雨や雪。その他は、高気圧に覆われ概ね晴れたが、午後は西から次第に曇り、九州では雨。松山市でモンシロチョウ初見。



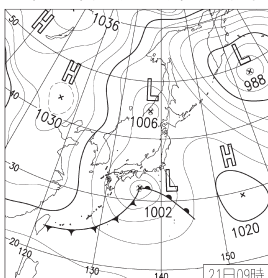
### 19日(日)沖縄や九州南部で雨

気圧の谷が日本の南を通り沖縄～九州南部は曇りや雨。高気圧は朝鮮半島～本州付近へ張り出す。北陸は寒気の影響で一部で雨や雪。その他は概ね晴れ。横浜市などウグイス初鳴。



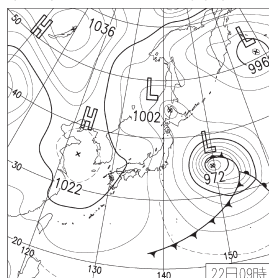
### 20日(月)西から天気下り坂

高気圧は山陰沖から関東の東へ移動。東シナ海で前線上に発生した低気圧が夜には九州の南へ、沖縄～西日本は雨。奄美では激しい雨で日降水量100mm前後。東～北日本は日中晴れ。



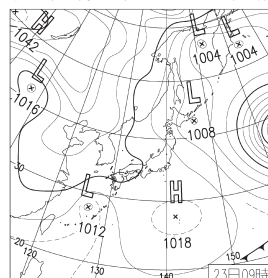
### 21日(火)東京サクラ開花

平年より5日早く、全国一早いサクラ(ソメイヨシノ)開花。本州南岸を急速に発達しながら進んだ低気圧が関東の南東海上に達し、全国的に曇りや雨。標高の高い所や北日本は雪も。



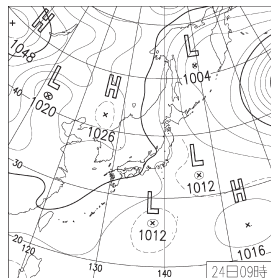
### 22日(水)各地から鳥の便り

低気圧発達し東日本～東北は強風続く。北海道東部は別の低気圧による雪で鶴丘で3月1位の日降雪量39cm。長崎市でウグイス、和歌山市でヒバリ初鳴、福岡・松山市でツバメ初見。



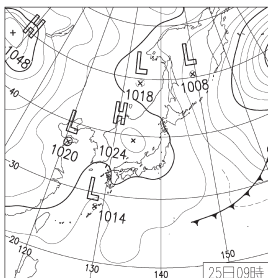
### 23日(木)南北で気圧の谷

南西諸島を低気圧東進し、沖縄～九州は雨。北陸～北日本は寒気を伴う気圧の谷の影響で雪や雨。その他は晴れや曇り。最高気温は平年より低い所多く、九州では真冬並。



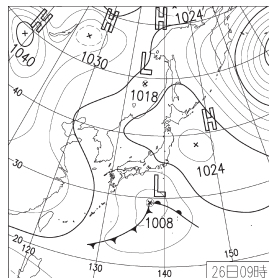
### 24日(金)北日本に強い寒気入る

寒気の影響で北陸や北日本の日本海側では雪や雨。日降雪量は山沿いで30cm前後。沖縄～西日本と東海・関東は晴れや曇り。京都市と奈良市でウグイス初鳴。



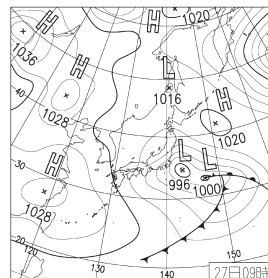
### 25日(土)福岡・横浜市サクラ開花

高気圧が日本海から東北へと移動。沖縄付近で低気圧が発生し東進。沖縄～九州・四国と東海は曇りや雨。鹿児島県平島では44.5mm/1hの激しい雨。北陸・関東～北日本は概ね晴れ。



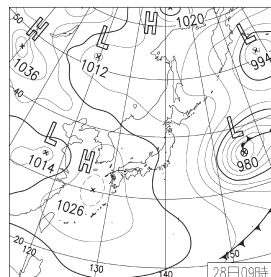
### 26日(日)関東甲信の山沿いで雪

低気圧が日本の南を進み、西～東日本の太平洋側中心に雨。北日本は概ね晴れ。最高気温は東海～関東を中心に平年よりかなり低く真冬並の所も。長野県軽井沢で日降雪量28cm。



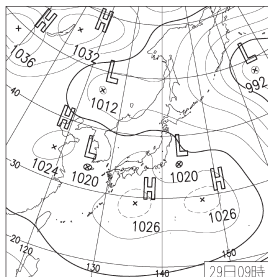
### 27日(月)栃木県でなだれ事故

強い寒気入り関東の東で低気圧急発達。関東～東北は山間部中心に雪や雨。最高気温は真冬並。西日本～東海も雷雨。栃木県那須高原で3月1位の日降雪量35cm。広島市サクラ開花。



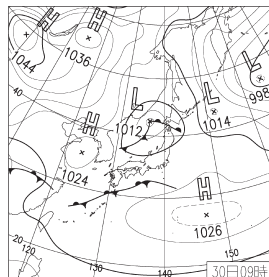
### 28日(火)高気圧に覆われる

全国的に晴れた所が多いが、上空の強い寒気の影響で西～北日本の所々でわか雨やわか雪。本州の日本海側や東海などで雷の所も。名古屋・岐阜・熊谷市でサクラ開花。



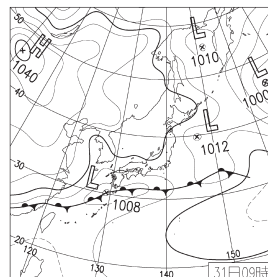
### 29日(水)下関・高知市サクラ開花

高知市は平年より7日遅い。湿った空気や低気圧の影響で沖縄～西日本は曇りや雨。寒気の影響で北日本は雪や雨。近畿～東日本は晴れ。高知・広島・富山市など7市でツバメ初見。



### 30日(木)東北以南は暖かい一日

低気圧の影響で北日本中心に雨や雪で雷も。日降雪量北海道登別39cmは3月1位。最高気温は東北以南で平年より高く西日本中心に20°C超。長崎・松山・大阪市など6市でサクラ開花。



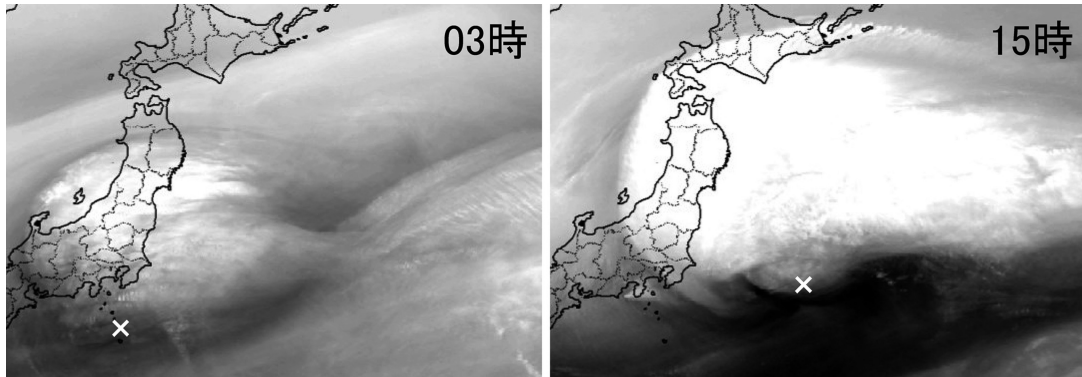
### 31日(金)南岸を低気圧東進

東シナ海～本州南岸の前線上を低気圧が進み九州～関東は次第に雨。沖縄も夕方から雨。北陸や東北は曇り。北海道は晴れ。最高気温は西～東日本で2月下旬並。京都市サクラ開花。



## 今月のひまわり画像—2017年3月

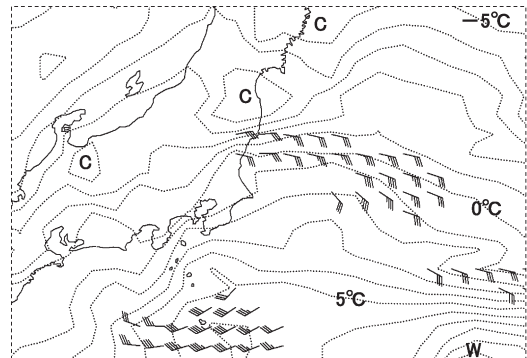
### 関東沖で急発達した低気圧



第1図 2017年3月27日03, 15時（日本時間）の本州付近における水蒸気画像（記号×は地上天気図における低気圧の中心）。

第1図は2017年3月27日03, 15時（日本時間）の本州付近における水蒸気画像である。25日～27日、日本の南海上に前線を伴った低気圧が東北東に進んだ。27日には、別の比較的スケールの小さい低気圧（同図中の記号×、以下、本低気圧）が東海道沖に発生し、関東沖を東北東進しながら急発達した。衛星画像では本低気圧の発達を示唆するバルジ状の雲域が次第に広がる様子を確認できる。本低気圧の中心気圧は同日03～15時の12時間で16 hPa 低下しており、千葉県銚子では約5時間半（08時30分～14時10分）、平均風速15 m/s以上の北寄りの強い風が吹き続け、13時には日最大風速24.4 m/sが観測された。

27日の環境場を見ると、対流圏上部では寒気を伴ったトラフが本州付近で急速に深まり、東日本の一部では圏界面の高度が400 hPa 面より低くなっていた。一般に、上層の正の渦位移流が大きい領域では上昇流が励起され、下層循環が形成・強化される。335 K 等温位面などの渦位及び風分布（略）を時系列で見ると、本低気圧はその典型例と言えた。また、水蒸気画像において本低気圧の西側に進入している暗域は成層圏起源の高渦位域に対応していた。一方、対流圏下部では、北海道の東海上にある高気圧の影響を受けて、本州東岸に流入する海上からの湿った風の流入が目立っていた。気象庁メソ数値予報モデル（MSM）における850 hPa 面の風及び温度場を見ると、未明～明け方、東北地方の太平洋側に滞留した下層寒気の南に形成された温度傾度の大きな領域で風の強まりが表現されており、関東地方北部付近の内陸部では下層収束が



第2図 27日03時のMSM（初期値：同日00時）による東日本付近の850 hPa 面の等温線（1°C毎、記号W, Cはそれぞれ高温域、低温域）及び風（30 kt 以上を表示、長い矢羽根は10 kt（1 kt=0.51 m/s）を示す）。

比較的顕著になっていた（第2図）。

最後になったが、関東～東北地方の山地では27日未明～明け方を中心に降雪が強まり、積雪が多くなった所があった。同日の最深積雪は栃木県の奥日光中禅寺湖畔で41 cm、那須高原で34 cm などとなった。また、那須高原では積雪差日合計が35 cm となり、3月の極値が更新された。この大雪の影響により、同県那須町では雪崩が発生し、高校生ら8名が亡くなった。また、福島県安達太良山でも雪崩が発生し、1名の死者が出た。（気象庁予報部予報課 木下 仁）